

研究題目	術後の血管作動薬の使用：前向き国際観察研究
簡易タイトル	Squeeze
バージョン	1.11 (最終) / 2019年5月21日
研究デザイン	国際前向き観察研究
背景と理論的根拠	<p>非心臓大手術の術後にしばしば低血圧となる。術後の極端な血管拡張に対する昇圧薬の持続投与は代用療法と考えられている。術後の昇圧療法の実施率については未だ報告がない。</p> <p>術後の低血圧の対処法については、病院、国、あるいは大陸間で相当な開きがあると言われているがそれは確かめられていない。我々は、術後に血管作動薬を用いられた患者において臓器障害の発生頻度、臓器補助の使用率、および臨床的転帰について差があると推論する。</p>
目的	<p>術後に昇圧薬を持続注入される患者がどの程度いるか、そしてそれに関連する臓器障害の発生率や臨床的転帰を調べる。</p> <p>患者、状態、手術内容、および術中管理などの要素が術後の昇圧薬投与に関わるかどうかを確認する。</p>
アウトカム	主要評価項目：非心臓手術患者における術後昇圧薬投与の使用状況
組入/除外基準	<p>組入：18歳以上の全ての成人非心臓手術患者(訳者注: オリジナルの不等号の種類間違い)</p> <p>除外：心臓手術、妊婦、および日帰り手術</p>
予定患者数	便宜的に、A群はおよそ40,000人、B群はおよそ12,800人
研究期間, スケジュール	<p>2018年秋: 現在の臨床についての電子的なアンケートと研究の宣伝</p> <p>2019年春～2019年秋: 研究者の募集、その国に合った倫理審査申請</p> <p>2020年春～: A群、B群の患者組入開始</p> <p>2021年春～: データ解析、論文執筆</p> <p>2021年末: 主要論文の投稿</p>